見守りネットワーク事業

総勢241名が参加！！

「住民支え合いマップづくり、個別避難計画作成」

役場庁舎内会議室において、11月15日広馬場地区、16日新井地区、17日長岡・山子田地区の地区ごとに開催いたしました。

本事業は、榛東村地域福祉活動計画に記載されている「地域における要援護者情報の把握と共有」に基づき、災害時等において支援を必要とする方・世帯（避難行動要支援者）を地域全体で見守るネットワーク構築のため地域支援関係者が一堂に会し地域の詳細情報を住宅地図に示し、避難行動要支援者を中心とした総合的な支援体制のマップづくりを実施し、地域住民による顔の見える関係づくり（地域力の向上）避難行動要支援者等の福祉ニーズ把握を目的としています。

今回も自治会長はじめ各区役員、民生児童委員、ささえあい協議体、榛東駐在所、消防団、防災ボランティア、学校関係者、JA榛東職員の多くの方々にご参加いただき、**マップづくり、避難行動要支援者名簿、個別避難計画作成**を行っていただきました。

①マップづくりは、行政区地図に要支援者宅（一人暮らし、高齢者世帯・障がい児者等）、支援者宅と危険箇所や除雪優先歩道を色分けし確認。

②避難行動要支援者名簿には、迅速な避難行動ができるよう身体の状況等に合わせて細分化し記載（身体状態区分　S・A・B・C）。

③個別避難計画の作成は、避難行動要支援者の避難誘導や避難先での留意事項、緊急連絡先等記載。

マップづくりは、世代を超えた顔の見える地域の関係づくりになり、情報共有することで実効性のある避難計画や日頃の見守り活動、災害から高齢者等、自ら避難が困難な方の命を地域の支援者と共に守り、安心して暮らせる地域づくり「近助」につながると考えられます。